

シシリムカ 文化財だより

平取町立二風谷アイヌ文化博物館・沙流川歴史館

2020.1.24

No. 5



左上：にぶたに湖対岸の雪景色

左下：貝澤ユリ子さんの手仕事（オキタルンペ [大きい模様つきのござ] づくり）

右：博物館正面玄関向かいのランコ（桂）

二風谷コタン整備事業完了後、初めての冬を迎えました。葉を落とした木々の幹と枝ぶりの輪郭の美しさ。他の季節では感じられない静けさのなかにある^{おごそ}厳かさ。博物館エリアから萱野茂二風谷アイヌ資料館へ続く「^{たくみ}匠の道」（工芸店が並ぶ道）を歩けば、外の冷たい空気のなかに工芸家さんたちの創作現場から伝わる熱が感じられます。さらに2月に開催されるシシリムカアイヌ文化祭での展示などに向け、アイヌ文化伝承に取り組む方々の手がいつも以上に忙しく動かされている気配も伝わってきます。整備事業を経て、二風谷コタンの外観は大きく変化しました。しかし、それとは対照的に、二風谷コタンでみられる樹木と森の季節ごとの景観変化や、人々の日常にある創作とアイヌ文化伝承の光景は変わらずにあり続けています。

2020（令和2）年4月には白老町にウポポイ（民族共生象徴空間）がオープンし、続いて東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。さらに5年後の2025（令和7）年には大阪・関西万博が予定されています。これら日本から世界へ向けて発信される大きな催しが続く令和の時代も引き続き、沙流川流域の歴史とアイヌ文化の学び・体験空間として二風谷コタンを町内外の皆さまに活用していただけるよう、博物館・歴史館ともに資料の保存・展示の改善に努めたいと思います。

（田中真澄）

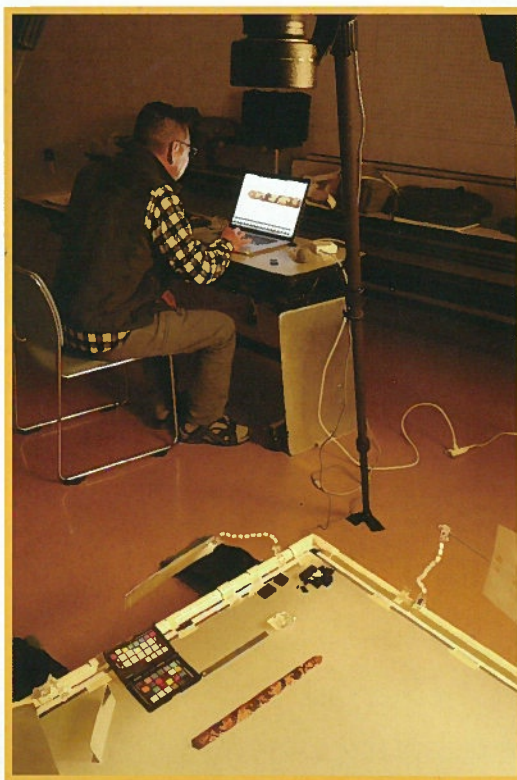
二風谷アイヌ文化博物館所蔵資料の写真撮影業務

2019（令和元）年 5 月 24 日に施行された「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」（アイヌ施策推進法）の第 7 条「アイヌ施策の総合的かつ効果的な推進を図るための基本的な方針」（基本方針）に基づき、平取町はアイヌ施策推進地域計画を提出し、2019 年 9 月 30 日付けで 15 事業が交付対象事業に決定しました。そのうち、平取町教育委員会文化財課（町立二風谷アイヌ文化博物館）は、2 件の事業の交付決定を受けました。ひとつは、博物館所蔵資料のうち主な民具を高解像度で撮影し台帳管理・図録作成をする事業です。もうひとつは、2021 年に英国ロンドンにあるジャパンハウスで、アイヌ文化の発信を行うための事業です。今回は、この 2 件の事業のうち、民具撮影の事業を紹介します。

【2019（令和元）年度 二風谷アイヌ文化博物館所蔵資料の写真撮影業務】

現在、二風谷アイヌ文化博物館には 919 点の国指定重要有形民俗文化財を含め、多数のアイヌ民具資料が保管・展示されています。しかし、これらの多くは有機質の資料のため、経年劣化が予想されます。そのため博物館としては、こうした資料群を少しでも良好のうちに高解像度のデジタルカメラで撮影・保管し、記録に留めておくことが重要と考えました。また、このようなデータ管理を可能とすることで、調査研究に活用されることはもちろんのこと、国立アイヌ民族博物館をはじめ他館への資料貸出の際の情報共有や、一般向けの普及啓発用の図録作成にも役立つものと考えております。

今年度の撮影は 2019（令和元）年 11 月から開始しましたが、1 資料につき数カットの撮影となると、全資料の撮影完了までには数年の時間を要します。しかし、町立博物館が所蔵する貴重なアイヌ民具資料を高解像度のデジタル画像で記録保存し、今後さらなる活用を展開していくうえで非常に有効な事業といえます。（森岡健治）



民具撮影風景



高解像度デジタルカメラで撮影されたトゥキパスイ（捧酒箸）

「ウレシパ」体験プログラム ③

2019年4月にオープンした平取町アイヌ工芸伝承館（愛称：ウレシパ）は、アイヌ工芸の伝統が息づく「匠の道」にあり、さまざまな体験プログラムを提供しています。

『アイヌ文様入りオリジナルタンブラー製作体験』は、レーザー加工機を使い、好きなデザイン・文字入りのオリジナルタンブラーを作ることができます。工芸体験は事前申し込みが必要です。詳しくはお問い合わせください。

料金 2,500 円

定員 4 人

開始時間 ①13:00 ～ ②15:00 ～

所要時間 最大 120 分

HP <https://biratori-urespa.jp/>

TEL 01457-3-7501

（月曜日休館、月曜日が祝日の場合は翌日以降の平日が休館）

（本田卓也）



レーザー加工機



アイヌ文様入りタンブラー

地域イベント ～アイヌ文化祭～

アイヌ民族の伝統を受け継ぐため「シシリムカアイヌ文化祭」が毎年2月第3日曜日に開催されています。二風谷アイヌ語教室子ども部による歌・踊り・劇、成人の部による劇・紙芝居・カムイユカラ、平取アイヌ文化保存会や他地域のアイヌ文化保存会による古式舞踊などの発表が行われます。その他にも平取町アイヌ文化保全対策室、イオル事業のパネル展示、複製工芸事業、実践上級講座の成果品の展示も行っております。

平取町のアイヌ文化の集大成のイベントです。ぜひご来場ください。

日時 2月16日（日）12:00～（終了後には懇親会も予定しております）

場所 平取町中央公民館（平取町本町 88-1）

※参加費無料（懇親会参加の場合は500円を徴収いたします）

TEL 01457-2-2341（役場アイヌ施策推進課アイヌ施策推進係）

（本田卓也）



前回（2019年開催）の様子

重要文化的景観

—重要な構成要素の紹介 5—

震災の記憶とアイヌ伝承（二風谷区域：アイヌの伝統を伝える山野と集落の景観）

2018（平成30）年9月6日の北海道胆振東部地震により、二風谷にあるオキクルミの伝承地が一部崩落しました。ウカエロシキ（u-ka-e-roski 互い・上・で・立ち上がる：通称クマの姿岩）と呼ばれる特徴的な岩塊で、3頭の親子グマのうち母グマの頭部に相当する部分がなくなっていました（写真1・2）。地域に伝えられる伝承（資料）をみると、かつては親子グマを追う猟犬の姿もあったとされており、長い年月を経る中で少しずつ姿を変え続ける自然の造形であることが分かります。遠い昔、沙流川に降臨したとされる人文神オキクルミは、穀物の栽培や丸木舟、アットウシ、漁獲、カムイへの礼拝等をアイヌに授けたと伝えられています。これらの多くは今日的なアイヌ文化継承活動の重要なものとして捉えられており、地域の暮らしで崇められるオキクルミ伝承が今に受け継がれている証とも言えます。

2019（令和元）年12月10日、二風谷ダム管理所の協力により、崩れ落ちた頭部分をウカエ

ロシキふもとの解説サイン横に移動しました（写真3）。震災によるアイヌ伝承地の変容を、後世にしっかりと語り伝えていく一環として行ったものです。

今後、イオルの森やその付近を利用する際には、ぜひ立ち寄ってご見学ください。（長田佳宏）

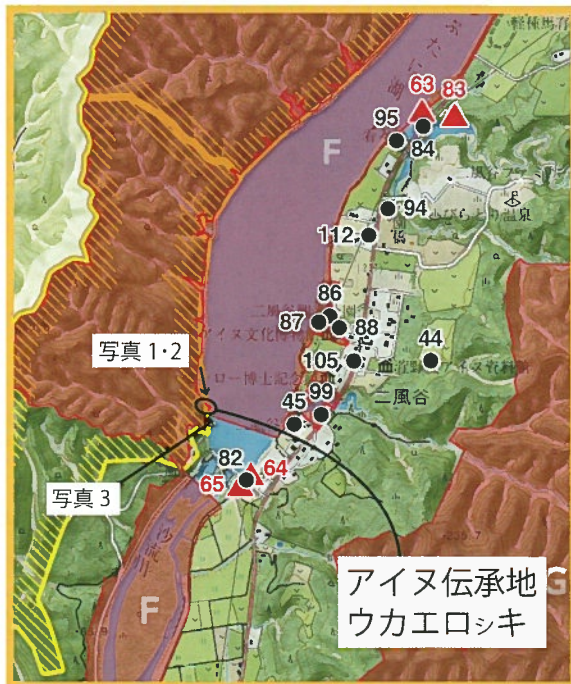


図 ウカエロシキの位置。二風谷ダム堤体の上流右岸側にある（朱塗り部分は重要文化的景観の範囲）。



写真1 崩落前

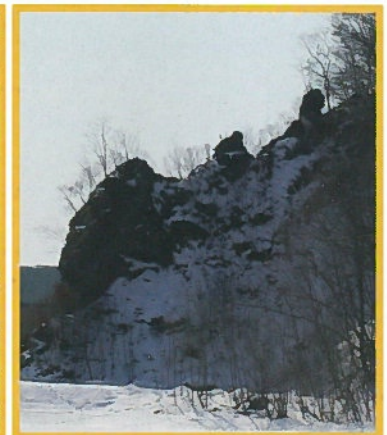


写真2 崩落後



写真3 母グマの頭部相当部分を解説サイン横に移設。崩落部分だけでも、いかに大きな岩塊であったかが分かる。

沙流川筋の二風谷部落川向にウカイロシキ（いくつも重なっている）という岩がある、文化神オキクルミカムイに追われた親子三頭連れの熊が、逃げて逃げてどうしても文化神に獲られることをこぼみづづけたので、腹をたてた文化神はその三頭を岩にしてみました。一番上のが二才熊で、次が当才、一番下のが親熊であるという、昔はその後ろにそれを追う猟犬の姿もあったが、欠けおちて今はなくなつた。

（平取町二風谷 二谷一太郎老伝）

※この伝承ではウカエロシキではなく、ウカイロシキ（互い・重なり合って・立ちあがる・もの）と表現されている。

資料 ウカエロシキの伝承。「通称クマの姿岩」に対していくつもの呼び名が伝えられている。

アイヌ語を覚えてみよう ⑤

イランカラプテ！（こんにちは！）

新しい年を迎えました。皆さまいかがお過ごしでしょうか。

今回は、ユカラ（英雄叙事詩）の伝承者としても大変有名な鍋澤元蔵氏（1886-1967）が、1959（昭和34）年にアイヌ語小冊子『アイヌ・モシリ』に寄稿した「アシリバ オッタ イランカラプ イタキ（新年の挨拶言葉）」を、そのままご紹介しましょう。



アシリバ オッタ イランカラプ イタキ
新年の挨拶言葉



アシリバ アウクワ シノ ケヤイコブンテッナ。

新しい年を迎え、私は誠に喜んでおります。

オロワ フシコバ オッタ 「アイヌ・モシリ」 ヒカンビ アエイクラワ ソンノ
クヤイライケナ。

そして、去年は小冊子「アイヌ・モシリ」をお送り頂き、大変有難うございました。

オロワ アシリバ オッタ クコロ ニシパ ビリカ スクブ キクニヒ カムイ
オルン ケイノンノ イタクナー。

そして、新年には、貴兄に良き成長（発展、飛躍）がありますよう、私は神へ祈りを
捧げますよ。

（和訳：関根健司）

「アイヌ・モシリ 幻のアイヌ語誌復刊」より引用

年賀状にもピッタリの文面です。

新年を迎える、というのをアイヌ語では「アシリバ アウク・新しい
年を我々が受け取る」という表現をしているのも面白いですね。

こういった文章を参考にしながら、もっともっといろんなことをア
イヌ語で表現出来るようになればいいと思います。

それでは皆さまも良い一年をお過ごしください。



ヤクン パクノ ネ。スイ ウヌカラン ロー！（それではここまでです。またお会いしましょう！）

（関根健司）

イザベラ・ルーシー・バード ～女性旅行家～

平取のアイヌコタンで体験したことを本にしました

イギリスの女性旅行家イザベラ・バード(1831-1904)は、イギリス・ヨークシャー・バラブリッジに牧師の長女として生まれました。

幼いころから病弱で、時には北米まで^{てんちりょうよう}転地療養したことがきっかけで長旅への魅力、旅行記録をつける楽しさを見いだしました。その後バードは生涯にわたって、色々な国を旅しています。



イザベラ・バード
「イザベラ・バード『日本奥地紀行』
を歩く」より掲載

1878(明治11)年の夏、イザベラ・バードは北日本から北海道のアイヌの地を旅しました。当時の日本は幕末の開国からまだ日も浅く、外国人の旅行は^{きょりゆうち}居留地から40km以内に制限されていました。すでに女性旅行家として名声を確立していた47歳のバードは、当時の英国公使パークスの尽力で、東北・北海道をほとんど制限されずに旅行できるという特別な許可証を入手し、通訳兼使用人として雇った伊藤鶴吉という青年とともに北にむけて旅立ちました。

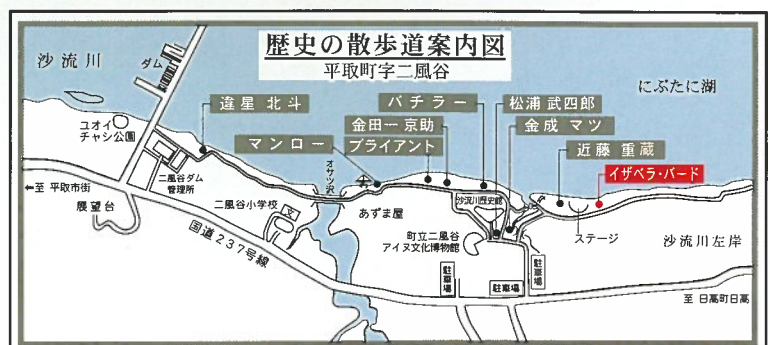
バードは日本の夏の暑さ、^{のみ}蚤、蚊そして貧弱な宿と食事、初めての^{こうき}外国人を見る好奇の目に悩まされながらも旅を続け、^{ひんじやく}鋭い観察にもとづく詳細な記録を残しました。

バードの旅の最終目標は平取のアイヌの村に滞在して、聞き取り調査をすることでした。東京を出発して約2ヵ月半後ようやく念願の平取に到着します。平取の印象について「平取はこの地方のアイヌ部落の中で最大のものであり、非常に美しい場所にあって、森や山に囲まれている。村は高い台地に立っており、非常に曲がりくねった川がその麓を流れ、^{ふもと}上方には森の茂った山があり、これほど淋しい所はないであろう」、「実に彼らの歓迎ぶりは熱心なもので、一騒ぎとなり、あちらへ走るものありこちらへ走るものあり、見知らぬ人を一生懸命に歓迎しようとした」とあります。平村ペンリウク首長の家に滞在した4日間、バードは彼らと生活を共にし、暮らしぶりを眺め、宗教・風俗習慣・アイヌ語について体験をとおした深い理解を得ました。帰国後、その旅の様子は『日本奥地紀行(原題: Unbeaten Tracks in Japan)』という本にまとめられました。明治初期のアイヌ民族の暮らし、北日本の農民や一般民衆の様子を伝える記録文学としてたいへん貴重なものであり、高い評価を受けました。(佐々木知代)



50歳のイザベラ・バード
「イザベラ・バードを歩く『日本奥地紀行』130
年後の記憶」より掲載

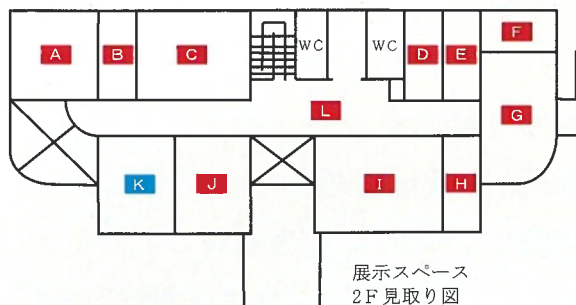
<参考文献> ▶ 釜澤克彦著(彩流社), 2009年
「イザベラ・バードを歩く『日本奥地紀行』130年後の記憶」
▶ 金沢正脩著(JTBパブリッシング), 2009年
「イザベラ・バード『日本奥地紀行』を歩く」



開拓財産 ～むかしのどうぐ～

その5：展示室のご案内

旧荷負小学校展示施設



- A 商業・生活
- C 学校
- D 地域の記憶
- E いろいろな道具たち
- G 林業・馬具
- I 収穫（秋）
- J 畑・稲作（春）
- K 家での暮らし
- L 壁面展示

B・F・H 関係者専用

展示室
K
について



K 家での暮らし

室内は2つの時期に分けられています。

奥の畳のスペースは大正後期～昭和初期、手前の畳のスペースは昭和20～30年代について展示しています。

時代の移り変わりとともに家具や生活雑貨は変化し、種類も増えています。

民具の紹介 ～町民の方へインタビュー～



平取町在住のM.Mさん(1946〔昭和21〕年生まれ、女性)に「展示室K 家での暮らし」に展示されている民具について、ご自身の経験を踏まえてご紹介いただきました。

【羽子板】

小学校低学年の頃のお正月に使いました。飾りがついてると取れてしまうので、絵が板に直接描かれたものを使いました。



【たらい・洗濯板】

小学校高学年頃まで使いました。その後は手動の絞り機がついた電気洗濯機を使いました。



見学のご案内

開館日 4月～11月の月・水・金曜日 9:00～12:00（祝日休館） ※変更になる場合あり
上記以外の日にちに見学を希望される場合は、以下の連絡先にお問い合わせください。
（廣岡絵美・小林斉子）

【ご予約・お問合せ】 平取町立二風谷アイヌ文化博物館 ☎ 01457-2-2892
沙流川歴史館 ☎ 01457-2-4085

平取町立二風谷アイヌ文化博物館

■休館日のお知らせ

4月15日までの毎週月曜日は定期休館日になります。

平取町

■第31回シシリムカアイヌ文化祭

期日：2月16日（日）12:00～15:00

場所：平取町中央公民館

問合せ先：アイヌ施策推進課

TEL 01457-2-2341

萱野茂 二風谷アイヌ資料館

■冬期休館（4月15日まで）

問合せ先：TEL 01457-2-3215

編集後記

冬期間は「にぶたに湖」が凍結しているので、シカやキツネなどの野生動物が湖面上を歩く姿が見られるかもしれません。夏場とは違った魅力がある二風谷コタンに、ぜひお越しください。（本田卓也）

沙流川歴史館

■企画展

「はじめての こうこがく」（仮題）

期間：4月21日（火）～5月17日（日）

場所：沙流川歴史館エントランスホール

休館日：4月27日・5月11日

※5月の連休期間中は休まず開館します

■むかしの写真を探しています

今後の展示資料のために、平取町の古い写真（昭和時代）のほか、開拓資料に関する写真を探しています。

お貸しいただける写真がございましたら、沙流川歴史館までご連絡ください。デジタル化した後ご返却いたします。

■ダムカードを配布しています

二風谷ダム管理所の依頼により、二風谷ダム・平取ダム（建設中）のダムカード（2種類）を配布しています。ご希望の方は、歴史館の窓口までお越しください。（おひとりさま1枚ずつの配布です）

2020年1月

日	月	火	水	木	金	土
29	30	31	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	1

● 博物館・歴史館 休館日

2020年2月

日	月	火	水	木	金	土
26	27	28	29	30	31	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

● 博物館 休館日

2020年3月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	1	2	3	4

● 歴史館 休館日

2020年4月

日	月	火	水	木	金	土
29	30	31	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	1	2

■ 歴史館 企画展

シシリムカ文化財だより No. 5

2020年1月24日発行

編集・発行／平取町教育委員会文化財課

平取町立二風谷アイヌ文化博物館

北海道沙流郡平取町字二風谷 55

TEL 01457-2-2892

FAX 01457-2-2828

E-mail nah@town.biratori.lg.jp

HP <http://www.town.biratori.hokkaido.jp/biratori/nibutani/>

アイヌ文化博物館
Facebook 更新中！



沙流川歴史館

北海道沙流郡平取町字二風谷 227-2

TEL 01457-2-4085

FAX 01457-2-4086

E-mail sar.muse@town.biratori.lg.jp

沙流川歴史館
Instagram 更新中！

